Vol.131 2016.3.1

千葉市幼稚園協会会報

ともだちの和

TOMODACHINOWA

特集 千葉市内 親子で出かける
おすすめスポット
第2弾

Contents

P02 ごあいさつ　熊谷俊人市長
P03 千葉市幼稚園協会　研究会･分科会
P06 教育研究会を終えて
P08 千葉市内 親子で出かけるおすすめスポット 第2弾
P10 保育室の窓から
P11 視察研修会を終えて、市長との懇談会を開催
P12 おべんとうだぁいすき、編集後記

発行／公益社団法人千葉市幼稚園協会　発行者／畠山一雄　編集者／千葉市幼稚園協会広報委員会　TEL：043-202-5005

子どもたちに最善の未来を

千葉市長　熊谷　俊人

私自身２児の父親として子育てを楽しんでいます。日々成長する我が子の姿に「次は何ができるようになるのだろう」とワクワクすると同時に、幼児期の教育がどれほど重要か、親の責任、教育機関や社会の役割を改めて痛感します。

「小さな手に大きな未来を」。素晴らしい言葉だと思います。千葉市で生まれ育つ全ての子どもたちに最善の未来を、数多くの選択肢を作ってあげられる街を皆さまとともに作っていきたいと考えています。

幼児教育の重要性については言うまでもありませんが、最近ベストセラーとなっている『学力の経済学』という本でアメリカの幼児教育の追跡調査が紹介されていました。

質の高い幼児教育を受けた子どもたちを 40 歳まで追跡調査を行った結果、受けなかった子どもたちと比べて雇用や経済的な環境が安定しており、反社会的な行為に及ぶ確率も低いそうです。

この調査で面白いと感じたのは、学力や IQ は短期的には差が出るものの、8 歳前後ではほぼ変わらなくなるという点です。では、何がその後も影響を与えるのかというと、「忍耐力がある」「社会性がある」「意欲的である」といった非認知能力、いわゆる「生きる力」の改善に持続的な差があり、これこそが質の高い幼児教育の価値だ、との研究結果でした。

すぐには計測できない、しかし確実に将来に大きな影響をもたらす幼児教育の重要性について、多くの方が改めて認識する流れが出てきていると感じます。

そうした中、平成 27 年４月、全国で一斉に「子ども・子育て支援新制度」がスタートを切りました。

千葉市は、私立幼稚園の皆さまの多大なご協力もあり、平成 26 年度から２年連続で待機児童ゼロを達成しましたが、新制度は待機児童対策だけを目的としてつくられたものではないことは言うまでもありません。特に「幼児教育の質の向上」は、とりわけ重要なテーマであると考えています。新制度のスタートを契機として、幼児教育と小学校教育との円滑な接続をはじめ、さらなる幼児教育の充実に取り組んでいきたいと考えています。

公立幼稚園を持たない千葉市では、３歳以上の子どもの６割が私立幼稚園に通っています。１万４千人を超える子どもたちが、教職員の皆さまの熱意と愛情の下で、健やかに学び、育っています。

千葉市幼稚園協会とのより強固なパートナーシップにより、「新制度」に参入することを選択された園も、参入しないことを選択された園も、「子どもたちの幸せ」という共通の目標に向け、一致団結して、千葉市の幼児教育の充実に取り組んでいくことが必要です。

今後とも、千葉市幼稚園協会及び加盟園の皆様には、より一層のお力添えを賜りたいと存じます。

千葉市幼稚園協会 研究会・分科会

千葉市幼稚園協会では教育・保育力向上を目的として、毎年さまざまな研修会を企画し
すべての教職員が参加しています。今年度開催された研修会の報告をいたします。

研究部会

今年は『感性豊かな子どもを育てる保育をめざして』という研究テーマを深めていきました。講師には塩美佐枝先生、青木久子先生、岸井慶子先生をお迎えして「センスオブワンダー」の世界を感じて保育者自身が表現したり、感性の捉え方や表現する場の構成について理論と実践の両面を考えたり、ビデオカンファレンスや実践事例を再考察してポスター発表を行ったりしました。さまざまな園の先生同士が保育実践を振り返り、多角的に考えを深め合い、充実した研究部会となりました。

グループごとの発表

事例についての分析

山﨑　佳世（由田学園千葉幼稚園）

分科会研修を終えて

第1分科会

第一分科会は、美浜区・稲毛区・花見川区の幼稚園で年少組や2才児教室を担当している先生たちが参加しています。今年度は、自らの表現力や受容力に磨きをかけ、豊かにしよう！ということで、リズム表現、絵画表現、特別支援教育について学びました。表情豊かに子どもたちに接する笑顔や描きのセンスがあちらこちらで花開いていました。家庭を離れ、社会に飛び込んできた子どもたちを最初に保育する重要な役割を担っていることに使命感を持ちながら研修を積んでいます。

らくがきは創造の原点

一人ひとりの育ちによりそう保育

熊田　佳美（子鹿幼稚園）

第2分科会

今年度の分科会研修を通して、環境、ことば、遊び、危機管理など多くの視点からさまざまな専門的な知識を学ぶことができました。

環境分野では、グループワークが中心で他園の先生方との意見交換をし、他園の取り組みや子どもたちの様子を知ることができたのでとても参考になりました。また、保育場面においては、自然とのかかわりをもっと大切にすべきと考えさせられました。

遊びの分野では、子どもたちの心を動かすきっかけワード「みてみて」「へんしんへんしん」などを学び、早速保育で実践してみたところ、子どもたちに変化が見られ、今までにないほど生き生きとした表情を引き出すことができました。単なる保育者としてだけでなく、遊びのリーダーとして子どもたちの先頭に立ち、遊びを広げていくことも保育においてとても重要なことだと感じました。

すべての研修を通して一保育者としてまだまだ知識、技術が足りないことにも気づかされました。これからも、今回の学びを活かし、保育力を高めていけるよう精進していきたいと思います。

自然の営みを考える

楽しい子どもの運動あそび

坂巻　舞香（葵幼稚園）

第3分科会

今年度は、先生方にいろいろな分野で知識や経験を豊かにしてほしいとの願いを込めて、研修を企画しました。リトミックの研修では、先生方が体でリズムを刻む楽しさを実感することができました。

千葉県立中央博物館では、あいにくの雨でしたが、自然を取り入れた保育のあり方についてグループごとにじっくりと話し合うことができました。

10月には、昨年に引き続き坂口美佳子先生にたくさんの科学絵本を紹介していただくと共に、実際に、フェルトボールや万華鏡作り、磁石で動くおもちゃ、ばねを使った糸電話など保育の現場で活かせるたくさんのヒントをいただき実りある研修となりました。

分科会研修のなかで、先生方が熱心に学ぶ姿から保育者としてのスキルアップにつながっていることを嬉しく思います。

自然の営みを考える

正しいリズムをきざむために

榎木　明美（小ばと幼稚園）

第4分科会

この分科会は、年中担任の実践に役立つ内容を企画しスタートしました。科学あそびでは先生方も楽しんで行っていけるものを、絵画指導や運動のあり方では、幼児一人ひとりの発達や生活に応じた援助や興味・関心を引き出す指導法を学びました。皮膚疾患についても感染対策等を知ることができました。これからもより良い分科会を目指していきたいと思います。

皮膚疾患や傷の応急処置について学びました

科学絵本の奥深さを知りました

中村　八重子（千葉文化幼稚園）

第5分科会

リズムダンス、ことば、絵本の読み聞かせ、小学校見学、それぞれの研修は実りあるものでした。特に北貝塚小1年生4クラスと特別支援学級３クラスの授業は、参加した先生方に関心をもたれたようです。必要に応じて各児童が理解できる支援のクラスで授業を受けられるのです。給食は同じ教室に集まってみんなでいっしょに食べています。きめ細やかに一人ひとりに対応している学校の様子にみなさん感心させられたようでした。

関原　喜恵（山王幼稚園）

第6分科会

第1回目は、造形作家の鈴木洋子先生による「五感で表現、自然から学ぶ」というテーマで自然環境豊かな聖母マリア幼稚園の園庭に出て、手作りの感覚ノートに自然の匂い、風、感じた思いを形にして描きました。

校長先生手作りのモニュメント

また、複眼レンズを使って虫のお面を作り表現活動をしました。虫をじっくり観察したり体で表現したりする活動は、翌日の保育で実践してくださった先生が多くいました。

第2回目は、日本のお手玉の会、今野雅子先生による「すてきな伝承遊び、手から心へ、ひびき合うお手玉」というテーマで、参加者全員がお手玉を作りました。慣れない針と糸に苦戦しながら作り上げたお手玉を使って、さまざまな遊び方を教わり、お手玉級位認定の試験を受けました。忘れかけていたこの遊びは、初めて作ったお手玉とともに各園に持ち帰られ、遊びは広がっているという報告がありました。

第3回目は、助産師の川島広江先生による「子育ての原点、健やかな生命を守るマザリング」というテーマで、子育てでいちばん大切なことは何かを考え、保育者としての仕事を見つめ直すことができました。

最終の第5回目は、大巌寺小学校（中央区、緑区）、北貝塚小学校（若葉区）に分かれ、授業参観をしました。参観後は、校長先生はじめ授業をしてくださった先生、養護の先生との協議会を行いました。そこでは就学に向けての幼稚園生活や、子どもたちに必要な

心構えや取り組む姿勢など、活発な意見交換ができ、年長組担任としての責任を感じさせられました。

ランドセルや学習机を目の前にして、期待に胸を膨らましている子どもたち。その思いを繋げるために、伝えなければいけないことが具体的にわかる小学校参観は、幼小連携に必須の機会で、今後も続けたい研修だと思います。

毎回、熱心に参加してくださる先生方と講師の方々に、感謝申し上げ、次年度も、要望の多い実技研修を計画して参ります。

1年生の国語の授業

2年生の算数の授業

今井　尚美（白梅幼稚園）

第7分科会

今年度は合唱指導から始まり、園庭をテーマとした保育環境の整備、日常生活での食育の大切さ、子どもと一緒に楽しむマジックと、バラエティに富む内容となりました。

いずれも日々の保育に密接に関わる興味深いテーマであり、講義の場面をはじめ、ディスカッションでも熱く議論を交わす等、熱心に取り組む先生方の姿が見られました。研修後の感想でも「良い刺激になった」「とても勉強になった」「ここで学んだ事を実際の保育で活かしたい」等、前向きな意見が多数寄せられ、充実した研修となりました。

食育を改めて考える

マジックの実演

柴田　大輔（千葉明徳短期大学附属幼稚園）

事例研究会

4年目の事例研究会となりました。今年度も支援を必要とする子どもたちの事例報告を中心に学びを続けています。療育センター職員、各区保健師の皆さんに加え、植草学園大学の栗原先生にもアドバイザーとしてご参加いただいています。夏に行われる専門機関の見学先には児童相談所と養護教育センターが加わりグレードアップしました。子どもたちの困り感にどんな手立てで対応していくのか、さまざまな角度からの意見を交えて協議し、先生方のスキルアップに繋げています。

夏の事例研で大宮学園を見学

年間を通しての事例報告

鈴木　由歌（愛隣幼稚園）

特別支援教育研修会

今年度計画された特別支援教育研修会は、5月「障害のある子も共にある保育」、7月「就学に向けて連携を考える」「発達障害とは」「インクルーシブ保育を考える」、平成28年2月「共に暮らしやすい社会を目指すために」という内容で行いました。子どもの個性は多様です。従ってどの幼稚園にも気になる子はいるのではないでしょうか。また、時には障害をもっている子も幼稚園に入園してくることでしょう。この研修会では、どの子にも良い保育をするための方法や配慮について考えています。

就学に向けて連携を考える

インクルーシブ保育を考える

鈴木　朱美（植草学園大学附属弁天幼稚園）

教育研究会を終えて

中央区

連日続いていた雨も上がり、天候に恵まれました。雨天時は、戸外活動のかわりに、縦割りの「仲良し広場」を計画しておりました。これは、自分の参加したい遊びを選び、その組に行き活動します。

晴れていたこの日は、園庭で「狼さん今何時？」「クラス対抗リレー」「ヘビジャンケン」等、楽しんでできました。

同じ保育という仕事に携わる方々にみていただくことで、各教諭ともに緊張した1日をすごしました。終了してみれば良い経験をしたと思います。園内も少しきれいになりました。

参加された方々から貴重なご意見をいただきありがとうございました。

年長組　世界地図作り

上代　典子（翠幼稚園）

中央区

第49回教育研究会は、私自身平成18年第40回教育研究会以来2回目です。前回の反省としてピアジェ教育理論の教材保育を全面に出しすぎたことがありましたので今回は朝の活動、音感教育、ピアニカ指導、外遊び、英語教育等できるだけ普段の姿が公開できるように配慮したつもりです。参加された先生方からのアンケート結果では当園の根幹である「躾とお行儀・集中力と達成感・自律と自己修正」に多くの評価をいただいたことに感謝感激いたしました。何よりも降園時に園児たちが「今日は立派だったでしょ」「僕たちどうだった？褒めてくれる？」と担任と会話する風景が一番の公開教育研究会の成果でした。

年長組　鍵盤ハーモニカの指導

伊藤　徳久（九重幼稚園）

美浜区

天候に恵まれた教育研究会当日は、約100名の先生方にご来園いただきました。

初めて教育研究会を経験する職員が多く、緊張の中先生方をお迎えしましたが、子どもたちはいつもどおりの元気な挨拶・活動をすることができました。

各クラスそれぞれ、盛り上がったり集中して活動に取り組めたりと、良かった点はもちろん、反省も多々ありましたが、たくさんのお褒めの言葉をいただき、職員一同貴重な経験となりました。

また、準備や日案等、ひとつひとつ時間をかけ、全員で日々の振り返りができ学びの一日とさせていただけたことに感謝しています。

年長組の新聞紙リレー

樋口　佳子（千葉白菊幼稚園）

美浜区

教育研究会の担当園になり、普段の保育を大切にということで臨みました。

参観された先生方に優しい眼差しで見守っていただいたおかげで、子どもたちは緊張することなく普段どおりにすごせたと思います。

今回の研究会で皆様からいただいたご意見やご感想はとても貴重なものとなり、これからの保育を見つめ直す良い機会となりました。この経験を保育に活かし子どもたちと充実した日々をすごせるように努めていきたいと思います。

戸外あそびを楽しむ子どもたち

柴原　由美（千葉さざなみ幼稚園）

花見川区

前日の雨とうって変わり、青空のさわやかな日となり、職員もホッと一安心のなか、教育研究会がスタートしました。外でのびのび遊ぶ子どもたちは、職員のドキドキとは裏腹にいつもどおりの落ち着いた姿を見せてくれました。

教育研究会を終え一番に感じたことは、保育の内容はもちろんのこと、日常の保育を改めて見直す良いきっかけになったということです。挨拶や生活習慣等、普段何気なくしていることが大切であり、それこそが保育の中心にあるのだなと感じました。今回は子どもたちだけではなく、園全体の意識が高められ、とても良い経験になったと思います。

おまわりさん、孫、泥棒などに皆楽しくなりきりました

広田　実（こてはし台幼稚園）

稲毛区

教育研究会当日は、製作や文字指導、ゲーム・ペープサート・秋の自然物を使った遊びなどの活動を参観していただきました。参観後の感想では、多くの先生方が自分の保育と照らし合わせたり、自園との違いを感じたりすることができたようでした。

今回の公開にあたり、園内の保育環境や保育内容について見直しをするよい機会となりました。本園にとって良い経験になったことに感謝いたします。今後も保育の向上に向け、日々努力をしていきたいと思います。

年少組　楽器遊びの様子

米元　香里
萩原　由紀（稲毛すみれ幼稚園）

若葉区

このたびは教育研究会にて、みのり幼稚園にご来園いただき、まことにありがとうございました。教育研究会に向けて、毎日の保育を改めて見直し、教職員全員一丸となって勉強し、チームワークや団結力がとても高まりました。子どもたちの成長も大きく、当日はたくさんの先生方にがんばった姿をお見せすることができました。ご来賓の先生方からは貴重なご指導を賜り、大変感謝しております。参加者の皆様から、大変あたたかいご声援や感動の声をいただいたことも教職員一同とても励みになりました。このような機会をいただき、ありがとうございました。

園長　岩館早苗

岩館　早苗（みのり幼稚園）

緑区

今年、緑区では、ほまれ幼稚園が教育研究会を開催して、多くの先生方に来園、参観していただきました。当日は、暖かい晴天にも恵まれ、本園のシンボルであるイチョウの木の下で、自然感ある保育を進めることができました。園庭で自由遊び、体操をしてから、ホールで全園児によるダンボールを使った製作活動を行いました。園児たちには、友だちと仲良く意欲的に取り組む姿が見られ、無事に終了することができました。教職員一同は、皆さんの参観で自分の保育を振り返り見直すきっかけとなったようです。心より御礼申し上げます。

この研究会を開催するにあたり、千葉市幼稚園協会の役員、各園の先生方から心温まるご助言、励ましのお言葉をいただきました。また、園児の保護者や多くの方のご協力、お手伝いをいただき、感謝しております。私は、この研究会をとおして教育のあり方だけでなく、相互に助け合うことの大切さを強く感じました。このことは、今は亡き前園長の思いでありました。本園では、今後も保育の向上に努めたいと考えております。皆さんのご指導をよろしくお願い申し上げます。

ダンボール迷路遊び

全体会の様子

西郡　敏夫（ほまれ幼稚園）

あれこれ are kore No.2

千葉市内 親子で出かける おすすめスポット♪

NPO法人 郷土ちばに学び親しむ会 理事
前都幼稚園 園長　高　橋　　明

市内には親子で楽しめる魅力あふれる「おすすめスポット」が多数あります。前号では、千葉市の事業計画も考慮し、その中から、ポートパークや青葉の森公園、千葉市立郷土博物館など五ヶ所のエリアを紹介しました。
今回は前号で紹介できなかった「おすすめスポット」のいくつかを紹介します。

1 千葉公園めぐりと千葉市中央図書館（生涯学習センター）

千葉公園はJR千葉駅より徒歩約10分。大賀ハスなど四季折々の自然が楽しめます。

園内の遊具広場には懐かしい蒸気機関車が展示され、乗って遊ぶこともできます。また、綿打池は市内で唯一、貸しボートがあり、季節ごとに多数の水鳥も飛来します。同じ施設内に軽食、喫茶店カフェ・ハーモニーがあります。ここは市内の特別支援教育に従事した元先生方と親の会の皆さんが「NPO法人障害者の就労を支援する会」を組織し経営しています。発達障害の子どもたちの職業訓練の場ともなっています。料理もおいしく人気があります。

公園近くの千葉市中央図書館は千葉市図書館の中核館です。平日は午後9時まで開館、土曜日には絵本の読み聞かせ等が開催されます。約3万8000冊と絵本の蔵書数も多く紙芝居と合わせ一人10冊まで借りることができます。

生涯学習センター（同じ建物）でも映画会や「千葉市もの知り検定」など子ども向けのイベントがいろいろと工夫されています。

綿打池と大賀ハス

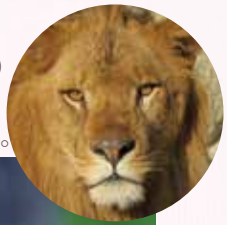
2 千葉市動物公園と千葉市子どもたちの森公園

後ろ足で立つレッサーパンダ風太君で全国的に有名な動物公園も開園以来30年になります。子どもたちが動物に直接触れることができる「子ども動物園」や学習のための「動物科学館」が設置されています。なかでも「子ども動物園」の「ふれあいコーナー」は動物に直接触れることができ子どもたちに人気があります。千葉市内は勿論、市外からも幼稚園、保育所、小学校の体験学習のため子どもたちが多数来園しています。

千葉市動物公園では、2つの大きな展示リニューアルを進めています。ひとつはライオンの飼育です。場所は家畜の原種ゾーンの所です。もうひとつは遊園地の跡地を活用して乗馬（引き馬）体験などができる「ふれあい動物の里」の整備です。いずれも4月下旬の完成をめざしています。

動物公園の近くには「子どもたちの森公園」があります。ターザン遊びや泥んこ遊び、秘密基地造り、穴掘りなど、どんな遊びでも自由にできます。スコップやノコギリなど遊びに使う道具も借りることができます。遊びの相談相手にプレーリーダーが常駐しています。その時はたき火も可能です。（水、木は不在）

家族やグループでの遊びがお勧めです。車で来園の際は動物公園の駐車場が便利です。



レッサーパンダの風太君

3 千葉市科学館と子ども交流館（Qiball）

官民複合施設、きぼーる（Qiball）には親子で楽しめる千葉市科学館、子ども交流館、子育て支援館など子育てや子ども向けの施設があります。

千葉市科学館は8階から10階までのフロアに約140もの体験型展示をしています。それぞれの階にはワークショップターミナルがあり、工作体験や科学体験ができます。たくさんのコーナーの中から、その子なりの感動体験が広がることでしょう。7階のプラネタリウムもおすすめです。満天の星空を眺めながら、親子でのんびりできます。

きぼーる（Qiball）の3階から5階には子ども交流館があります。3階の「遊びのフロア」のアリーナではフラフープなど年齢にあった楽しい運動体験が可能です。5階「憩いのフロア」のプレイルームには滑り台など大型遊具も設置されています。

6階の子育て支援館は、育児不安等の子育てに関する支援を行っています。「わいわいひろば」など親子で楽しく遊べるコーナーもあります。

ワンダータウン「ビリヤード」▶

プラネタリウム

4 検見川の浜と花見川

「幕張の浜」と「いなげの浜」の間にある、少し目立たない「検見川の浜」もおすすめスポットです。前回紹介したポートパーク同様に無料の広い駐車場（県立千葉西高校の隣）があります。

潮風に吹かれ、子どもと一緒に散策や砂遊びなどが楽しめます。干潮時には、アサリやホンビノス貝など潮干狩りも楽しめます。ここは千葉市の鳥「コアジサシ」の繁殖地としても知られています。5月頃に飛来し営巣します。沖に向かって長い堤防が伸びており、たくさんの釣り人が楽しんでいます。

近くの花見川は、サイクリングやハゼ釣りで知られています。上流の汐留橋から上は淡水でフナが釣れます。千葉市の小学4年生は、社会科の授業「千葉市の発展につくした人たち」で花見川の歴史を学んでいます。

検見川の浜と長い堤防

5 泉自然公園と近くの公民館（白井公民館）

春のカタクリと桜、秋の紅葉など親子で散策が楽しめます。特に桜は「日本の桜名所百選」に選ばれ人気があります。池にはガチョウやアヒルの他に野鳥がたくさん舞い降りています。カワセミが巣作りをしており、その時季にはカメラが並びます。親子で自然体験を楽しむ姿も多く見られます。

公園の近くに白井公民館があります。図書館を併設しており、絵本も多数あります。子ども向けに読み聞かせもしています。

市内にはほぼ中学校区単位で47の公民館があります。その中で約6割の公民館が図書館を併設しています。それぞれに絵本の貸し出しはもちろん、読み聞かせなど子ども向けのイベントも用意されています。

公民館の講座の一つに「子育てママのおしゃべりタイム」があります。子育ての苦労や悩み、楽しさをみんなで話し合う場となっています。千葉市が選任した子育てサポーターを中心に、ママ友づくりにも役立っています。予約いらずの自由参加です。50台ほどの駐車場があります。（実施公民館、日程等は市のホームページや市政だより参照）

「日本の桜名所百選」に選ばれた桜

保育室の窓から

すてきな子どもたちと

花園幼稚園　竹　澤　祐　子

秋、年中・年長児は路線バスを利用して園外保育に出かけます。年中児はバスを降りると気分が高まり「どんぐりころころ」を口ずさみながらさつきが丘の神場公園へ。「池に落ちないように気をつけてね！」と話した直後、探検ごっこに夢中で膝まではまりびしょ濡れになり、さっそく着替えることになりました。また、がんばって集めたどんぐりが、帰る直前になって探しても見つかりません。がっかりしながら園へ戻ると引率の先生のリュックの中に・・・。どうやらリュックを間違えていたようです。「みつかったよ！」と伝えると、満面の笑みとちょっぴり恥ずかしそうな表情を見せていました。

年長児は美浜区の消防署見学へ。わかりやすく説明していただき、大好きな消防車・救急車も見学、子ども用消火服を着て写真も撮り、大満足の子どもたちでした。大人（先生）がはしご車に乗せてもらい、はしごがどんどん高く伸びる様子を見ていた子どもたちの中からかわいい声が聞こえてきました。「いいな！！大きくなったら幼稚園の先生になろう」「あたしも！」「私も！」なるほど！？はしご車に乗れるから、消防士ではなく幼稚園の先生になりたいそうです。すてきな子どもたちと、楽しみながら一緒に活動しています。

私の好きな絵本

「となりのせきのますだくん」
ポプラ社　武田美穂　作・絵

みほちゃんの心情で描かれる絵本は、小学１年生の不安げな気持ちを表わしているように感じます。ユニークな姿のますだくんにイメージを膨らませます。併せて「ますだくんの１ねんせい日記」を読むと、両者の気持ちを知ることができます。

お誕生会

松ヶ丘幼稚園　原　明　美

松ヶ丘幼稚園のお誕生会でのお楽しみはふたつあります。

ひとつは、お誕生児が「大きくなったら何になりたいですか？」という質問に答えるインタビューです。

男の子は、仮面ライダーやレンジャー物の正義の味方、サッカーや野球の選手、バスや電車の運転手やパイロットなどです。正義の味方の時は「先生やお友達が困っていたら、助けに来てくれますか？」と質問すると「ハイ！」と元気に答えてくれます。そんな時は小さな体がとても逞しく見えます。

女の子はケーキ屋さんやお花屋さんなどから、プリキュアなどのアニメの主人公やアイドル。そして最近ではネイリストなども増えてきました。やっぱりきれいなものや可愛いものに心を奪われるのですね。ちょっぴりはにかんだ笑顔で答える姿はとても可愛らしいレディーに見えます。

もうひとつは、お誕生児のお母様方にも参加していただき、簡単な余興をしていただいています。人形劇・ダンス・合奏やクイズ等、自分たちのお母さんがステージ上で頑張っている姿を見て楽しみ、お祝いしてもらう喜びを感じています。

自分やお友達の成長を喜び、お祝いする気持ちを育むお誕生会をこれからも大切にしていきたいと思います。

私の好きな絵本

「月へミルクをとりにいったねこ」
福音館書店
アルフレッド・スメードベルイ

月にミルクがあるときいたねこのお母さん。子ねこたちのために月に向かいます。途中、にわとり・ぶた・こうしに出会い一緒に月に向かうのですが、みんなくじけてしまいます。でも、かあさんねこだけはあきらめません。

そんなかあさんねこの大冒険と素敵な結末に思わずにっこりです。

当番活動

磯辺白百合幼稚園　福　田　悠　季

１年が過ぎるのはとても早く、幼稚園の周りの木々も色づき始め、秋が感じられる季節となりました。運動会が終わり、子どもたちもみんなで協力して行う楽しさを十分に味わうことができたように思います。

私の園では、年少組の当番活動は運動会終了後から始まります。今年もその時期となりました。当番カードはアイスクリームの形をしていて、ひとりずつの顔写真が大きく貼ってあります。マーブリングでアイスの模様を作るところから子どもたちのワクワク感は伝わってきていて、できあがったカードをキラキラした目で見ながら「あれぼくのだよ！」「○○ちゃんのかわいいね！」という会話がクラスの中を飛び交っていました。

はじめて園長先生に出欠席の報告をしに行く時は緊張と不安でいっぱいな子どもたちでした。「おはようございます。××ぐみの○○です。今日のお休みは○人です。よろしくお願いします。」の言い方も回数を重ねていくごとに堂々と得意気に伝えられるようになり、最初のうちは担任も一緒に職員室に行っていたのですが、最近では「ふたりで行けるから大丈夫。先生はお部屋に戻っていて！」と言われてしまいます。自分の順番が再びまわってくると「ぼく２回もやっていいの？」と嬉しそうに言ってきたり「次のお当番はだれなの？」と聞いてきたりする様子から、自分の番がまわってくるのをとても楽しみにしていることが感じられます。この当番活動をとおして、自信をもって物事をやり遂げる力やその達成感から新しいことへ挑戦してみようとする意欲が芽生えていったら嬉しいです。

私の好きな絵本

「すてきな三にんぐみ」
偕成社
トミー・アンゲラー　作・絵

ハラハラドキドキする話かと思えば、あたたかいエピソードが最後にまっています。少しずつ明るい色に変化していく絵のタッチが好きです。

視察研修会を終えて

11月27日、市内80%の幼稚園が新制度に移行したという実績を持つ茨城県水戸市の赤塚幼稚園認定こども園あかつかを訪問させていただきました。合計14クラスから構成される大きな園は元気なこどもたちで溢れ、小川が流れるトトロの森の魅力的な園庭に感嘆させられ、また、昔から使用しているものは大切に継続して使うという理念も感じられ、すばらしいと思いました。

施設見学の後、新制度実施に伴う移行への経緯、行政側との話し合いの内容、決断するに至った経緯など臨床的考察の説明やこちら側からの質問に対しても丁寧にご回答いただき、とても有意義な研修となりました。

そのなかで心に残ったことは「教育の質の向上を目指すという基本的なことが私たちの生命線であり、損得だけでなく『良いこどもたちを育てよう』とする取り組みが少子化にストップをかける力になるのではないか」という中山理事長のお言葉でした。大切なことを改めて確認させていただいたような気がします。

今回、急な申し出にも関わらず快く対応してくださった中山理事長をはじめ、職員の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

日暮　さつき（千葉女子専門学校附属聖こども園）

トトロの森の魅力的な園庭

訪問先での話し合いの様子

市長との懇談会を開催

千葉市幼稚園 PTA 連合会の活動の一環として、2月 16 日、千葉市長と PTA 連合会役員、協会役員との懇談会を行いました。自己紹介後、和やかな雰囲気のなか、事前に寄せられた子育てに関する質問に丁寧にお答えいただき、さらに、特色ある市政の取り組みについても伺うことができました。

地域ぐるみの子育て支援の充実が求められている昨今、これからの市政に期待するとともに、私たちもその一助となるよう活動を進めていく決意を新たにしました。

開催するにあたりご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

山口　栄子（若松台幼稚園）

おしらせ! 千葉信用金庫白旗支店が賛助会員となりました

おべんとう だぁいすき

今回も若松台幼稚園の横森芳江先生のお弁当を紹介します。
ピーマンを使った目玉焼きがとてもかわいいです。ピーマンが苦手なお子さんも食べられそうですね。

編集後記

毎日、少しずつの積み重ねによって頼もしく成長してきた子どもたちが、まもなく、年中、年長、小学1年生になります。子どもたちの成長した姿を見るのは、何より嬉しいことです。

さて、幼稚園教諭にとって大切なことのひとつに、研修があります。各幼稚園の先生方は研修会に参加し、より充実した保育ができるよう努めております。本号で、その取り組みをご理解いただけましたら幸いです。また、原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。

おわりに、お子さんの成長を図る幼児教育は、家庭、幼稚園および認定こども園等、地域、行政が、それぞれの立場で協力し合って初めて効果を上げることができます。各幼稚園および認定こども園等は、今後も、そのために、一層の努力を重ねて参ります。

中島　文夫（都幼稚園）